



1921年、尾去沢鉱山で働いていた柳澤隆次社長の祖父が創業。  
 鉱山に関連した鉄工工事、機械メンテナンスはもちろんのこと、地域の人々を相手に生活用品の鍛冶仕事を請負ながら、地域とのつながりを育んできた。先代である父が事業を拡大、法人化し、現社屋に移転。  
 1977年、35歳の若さで柳澤社長が代表を受け継ぎ40年超、時代を見据えながら、地域とともに発展のあり方を探る。

## 鉄と名のつくものは何でも加工

地盤を掘り進み、地中奥深くの地下水や温泉、地熱を掘り揚げるボーリング。地下3,000mにも達する地中削孔に耐えうる機材やパイプ加工のスペシャリストが、鹿角市にある株式会社柳澤鉄工所だ。

創業は1921年。かつてその名を全国に轟かせ、日本の産業近代化に大いに貢献した尾去沢鉱山で優秀な技術者として働いていた祖父が興したのがそのルーツ。「鉄と名のつくものはどんなものでも加工する」信条のもと、鉱山に関連した鉄工工事、機械メンテナンスを主軸に、地域の人々の生活用品、時には自転車の修理まで請負ながら成長してきた。

先代の父の時代には鉱山で培った技術とノウハウを基盤に事業を拡大。さらに35歳の若さで代表を継いだ柳澤社長が発展させ、今では官民問わず、得意分野である試錐用ロッド・ケーシング及び各種産業部品の製造、建築用鉄構や橋梁・鉄塔等の大型構造物から一般的な建造物に至るまで、多品種を

手掛ける東日本有数の鉄工関係総合企業だ。社内で企画、設計、製作、施工まで一貫したシステムを整えており、大小・形態を問わず、定評ある技術力を頼りに難易度の高い注文が、日々全国から舞い込む。

「会社を継いで40年。他社では無理だと断られた難しい鉄製品の加工製造にも挑戦してしまうのは、私が祖父や父と同様の技術者上がりだからかもしれません」。

経営者よりも現場の方が性に合うと笑う柳澤社長だが、先を見る目は誰よりも秀でていた。技術者として現場に立っていた頃から、いつかは世界基準の品質が必要になると考え、いち早く現場に国際規格を取り入れた。時代の流れを掴み、ヨーロッパ各国やロシア(当時はソ連)、中国と自ら足繁く海外への視察・営業に通ったこともある。そんな国際的な競争力を念頭に置いた技術発展が、現在にわたって鉄工所を支える基盤となっている。

## 幾度の危機も地域とともに乗り越える

鉱山事業に温泉ブーム、再生可能エネルギーへの注目による地熱発電所の開設。世情を読み解きながら発展を続ける一方で、小さな鉄製品ひとつの依頼でも真摯に対応してきた。技術者時代からずっと柳澤社長が大切にしているのは、お客さまが何を望んでいるのか、どんなことで困っているのか、どうすれば解決できるのかを考え、向き合うことだ。

しかし、名実ともに鹿角地域の発展と雇用を支える柳澤鉄工所も、その道程は決して順風満帆だったわけではない。資源枯渇による各鉱山の閉山にオイルショック、リーマン・ショックと幾度となく会社は大きな打撃を受けた。それでも60名を超える従業員の雇用は守り続けている。

「地元根に根ざす、多品種小ロット製造の“鉄の何でも屋”であったことが、危機を乗り越える力になりました。特定の分野では全国の企業様と取引しておりますが、主力のマーケットはやはり地元。それに、従業員もその家族も同じ地域で暮らす顔の見える人々です。リストラは考えたことがありません」と柳

澤社長は語る

「技術で地域社会に貢献する」を社是に掲げる通り、技術とそれにより創り出される製品をもって地域とともに発展してきた強い自負がある。さらに現在は、少子高齢化が進む地域状況と技術継承の必要性を踏まえて定年制の廃止も検討し、希望者には年齢の上限なく働ける環境を整えている。従業員は20代から60代まで幅広いが、平均年齢は50代に近い。人材育成と若年層の雇用は力を入れて取り組んでいかなければいけない課題であることを柳澤社長は重く捉えている。

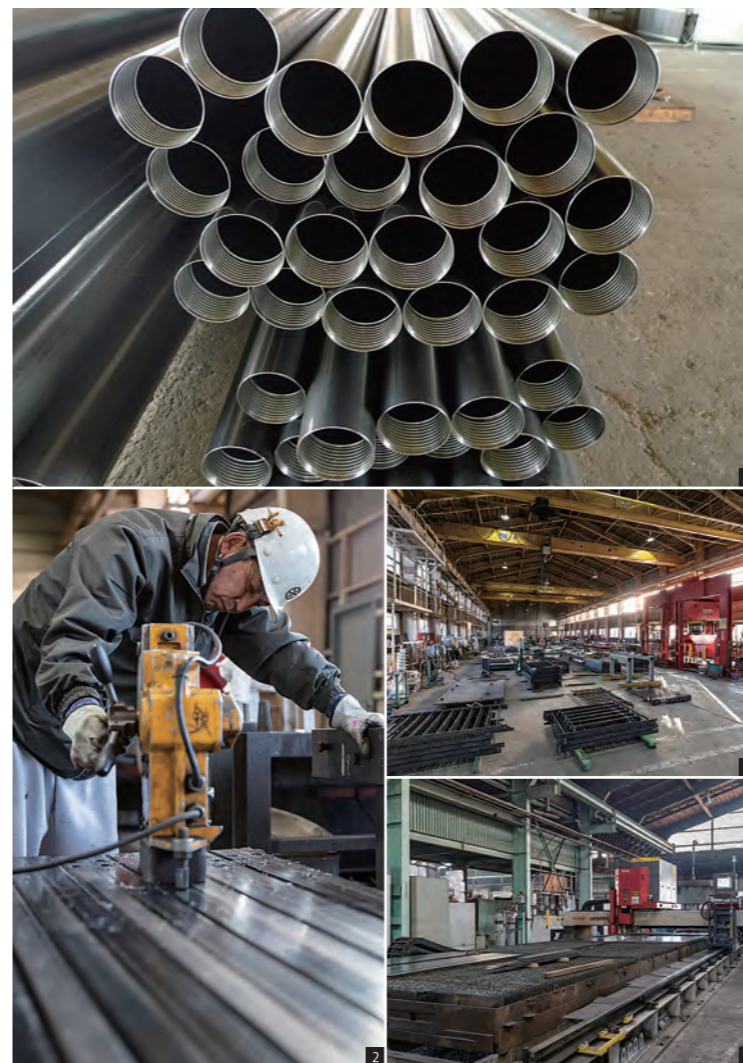
「自分自身が親の仕事を見ながらの、いわゆる“背中を見て覚える”だったので、技術継承の部分では反省点もありますね。経営方針は時代に合わせて変えていかなければいけない。色々模索をしている最中です」。

## “鉄”で新たな未来をかたちづくる

会社の新たなあり方は、息子である柳澤康隆専務も一翼を担う。康隆専務は、卒業後は県外で全く異なる業種の営業として働いていたが、10年程前に地元へ戻ってきた。営業アプローチや社内調整といった部分で職人肌の経営者である柳澤社長を支えながら、鹿角青年会議所の理事長を務める等、地域活動にも精を出す毎日だ。

「先々を見据えると新卒者を雇用したいのですが、地域としてその数は年々減るばかり。今いる社員を大切にしながら、若い人たちにとっても働きやすい職場環境を整えたいと思っています」。

康隆専務が話すよう、今年は長い歴史の中で、初めて女性技術者を採用した。地域や業界全体での人材不足に加え、産業競争でますます高度化、複雑化する技術に対応するべく、柳澤鉄工所は、社長と専務、経営者と従業員、そして会社と地域。それぞれに育んできた絆を誇りに、鹿角の地から、“鉄”で未来をかたちづくる。



1 高い性能のケーシングパイプは全国から注文が入る。  
 2-3 工場内では大小問わずあらゆる“鉄”の加工が行われる。  
 4 超大型のレーザー切断機。県内で唯一同社だけが持つ。  
 表紙 隆次社長と息子の康隆専務

### 株式会社 柳澤鉄工所

〒018-5201  
 秋田県鹿角市花輪字六月田28番地  
 TEL. 0186-23-2233  
 FAX. 0186-23-2244  
<http://yana.co.jp>

創業/1921年  
 ●資本金/2,000万円 ●従業員数/61名  
 ●営業品目  
 各種試錐用ロッド・ケーシング機器製造  
 建造物の設計・施工及び工事監理  
 鍛造物加工/各種フラット・鉄骨・橋梁(小規模)・水門等  
 各種産業機械機器製造/コンベア・機械部品等  
 管工事設計施工  
 重機(移動式クレーン・レンタル)作業

代表取締役社長  
 柳澤 隆次  
 やなぎさわ たかつぐ